

茨城県歯科医学会学術奨励賞「福田賞」について

学術担当理事 小鹿典雄



故 福田守利 先生

茨城県歯科医学会学術奨励賞「福田賞」

茨城県歯科医学会における活動を通して茨城県歯科医師会学術振興に功績のあった方を顕彰する

制定までの経緯

1991年度の福田守利先生を部長とした学術委員会で、当時の「若手」であった委員が、「県の学術事業として講師を招聘した講演会ではなく、茨城県歯科医師会会員の力を結集した茨城県歯科医学会を作りたい」と提案をしました。

それに対して福田部長から「企画書を作って出すように」との指示があり、パソコンを駆使して企画書を作り、再度委員会に提案をしました。それを受けた委員会で協議した結果、部長から「上層部や外部との対応は一切やるから、おまえ達で自由にやってみよう」と歯科医学会発足へのゴーサインが出され、ここから茨城県歯科医学会開催へ向けての準備が始まりました。当時の委員会は下記の構成でした。

部 長	福田守利
委 員 長	入江靖雄
副委員長	堀江 博
委 員	戸来 徹 萩原敬久 小鹿典雄 綱川健一 梶塚達夫 志賀正三 川口忠司

この委員の名前を見て顔を思い浮かべることができる方はお判りかと思いますが、なかなか過激な委員が揃っていた委員会であり、「若手」はやや暴走気味ということで入江委員長がご苦勞をされた様です。しかし、福田部長・入江委員長の理解の下で委員は夜な夜な集まっては、歯科医学会にかける夢だけを語ることができ、1993年2月に第一回の茨城県歯科医学会を開催する運びとなりました。

記念すべき第一回の茨城県歯科医学会は関係各位のご協力により旧県歯会館において1993年2月28日に開催することができました。しかし、この時福田先生はすでに病魔に冒されており、入院先から開会式の学術部長挨拶に出席されて「茨城県歯科医学会の誕生、学会と県歯学術の将来の発展」を宣言されましたが、残念ながらその数ヶ月後にご逝去されました。

福田先生が部長としてあの時に存在しなかったら、部長として若手の意見に耳を傾けなかったら「茨城県歯科医学会」は誕生しなかったかもわかりません。時間の経過と共に過去の記憶、功績は忘れ去られてしまうものですが、歯科医学会にとってこの功績はずっと後の代まで伝えていくべきだという委員会の意見を理事会で認めていただくことができました。

そこで第十回の歯科医学会開催を記念して、福田先生の名前を冠した茨城県歯科医学会学術奨励賞「福田賞」の制定を行い、歯科医学会において学術振興に功績のあった方を顕彰し、長く福田先生の名を伝えていくこととしました。



今までの受賞者

第1回福田賞（平成15年2月16日） 第11回茨城県歯科医学会にて

東西茨城支部食文化研究会 埴 章一 先生
笠間保健センター 高橋由美子 様
佐伯優子 様

受賞理由：食をキーワードとしたヘルスプロモーション公開講座により社会に向け
歯科の新たな活動

鹿行支部 田中晃伸 先生

受賞理由：第1回歯科医学会より多数の演題を発表

第2回福田賞（平成16年2月22日） 第12回茨城県歯科医学会にて

茨城歯科コンピュータ研究会

受賞理由：長年にわたり歯科とパソコンを結びつける企画を提案、会員へのパソコンの
普及・指導に貢献

（有）サンフォート社 鈴木昇一 先生

受賞理由：長年にわたる口腔内写真システムの普及・指導

第3回福田賞（平成17年3月20日） 第13回茨城県歯科医学会にて

東京医科大学霞ヶ浦病院 歯科口腔外科

受賞理由：第1回から歯科臨床症例を発表し会員へ情報発信、地域医療の拠点としての
役割も果たすなど貢献

茨城県土浦心身障害者歯科センター 高木伸子 先生

受賞理由：長年にわたる要介護者及び障害者の歯科診療に熱心に取り組まれた成果を
発表し会員の知識・技術の普及に貢献

第4回福田賞（平成18年3月19日） 第14回茨城県歯科医学会にて

茨城県保健福祉部保健予防課 鳥山佳則 先生

受賞理由：三年にわたって参加された歯科医学会において全ての時間で演者・シンポ
ジスト・テーブルクリニック講師として活躍、茨城県での歯科保健の普及・
会員教育に努めた

第5回福田賞（平成19年3月11日） 第15回茨城県歯科医学会にて

筑波大学臨床医学系 歯科口腔外科

受賞理由：長年にわたり歯科臨床症例を発表し、会員へ情報発信、地域医療の拠点と
しての役割も果たすなど貢献

第6回福田賞（平成20年3月16日） 第16回茨城県歯科医学会にて

取手協同病院歯科口腔外科（県南支部） 百瀬文雄 先生

受賞理由：第10回から第16回まで連続して発表、投稿論文を受付開始後は3回連続の
投稿を行い、情報発信を続け歯科医療医術の普及に貢献した